

経済政策論 A

—経済政策論 A の概要—

山田知明

明治大学

2025 年度講義ガイダンス



経済政策論 A・B の講義範囲

- 経済政策論 A・B で何を学ぶのか?
 - 『経済政策論』という研究分野は存在しない
 - 「私は経済政策の専門家です」という人はいない
 - 経済学関連課目(明治大学商学部で開講されているもの以外も含めて)のほぼあらゆる場面で政策に関わる議論がある
 - 例: 公共経済学、財政学、金融論、国際金融・国際貿易(=国際経済学)、産業組織論、景気変動論、社会保障論、政治経済学 etc
 - ⇒ 経済学のほぼ全てのトピックをカバーしないといけない
 - ⇒ 非現実的: 講義時間 & 教員の能力
- 方針: 既に開講されている課目との重複は極力避ける

経済政策論 A・B の講義範囲 (続き)

- 経済政策について議論する目的

- 望ましい政策 (=最適政策) とはどのようなものか?

- パレート最適配分を達成: ミクロ経済学

- 必ずしも存在するとは限らない

- 知りたいこと

- どういう政策がどういう効果があるのか?

- どの程度、効果があるのか: ○% の GDP 上昇

- 経済政策が いつ、だれにとって必要なのか?

⇒ 誰が便益を得て誰が損失を被るのか: 一貫した理論が必要

- この講義のゴール

- 現状把握 (統計データ・制度)

+

- ミクロ経済学・マクロ経済学に基づく理論的基礎

経済政策論 A・B の講義範囲 (続き)

- マクロ経済政策を中心に講義をする
 1. 経済政策論 A (短期) : 景気対策、財政・金融政策
 2. 経済政策論 B (長期) : 経済成長、社会保障制度、経済格差 etc
- ミクロ経済政策の例 ⇒ 公共経済学、産業政策論
 - 必要な時に適宜、ミクロ経済政策にも言及予定
- 本講義の特徴
 - 理論にウェイトを置く
 - (一応) 公務員試験の範囲にもなっている
 - ただし、公務員試験対策をするわけではない
 - 最先端の研究成果を可能な限り紹介する
 - 経済学は常に進化している

経済政策論 A・B の講義範囲 (続き)

- 理論的分析と実証的分析の両面からアプローチ
- 理論的とは? : **経済モデル**を理解する
 - モデルは現実の抽象化であり検証可能
 - 検証のためにはデータに関する理解が必要
- なぜ経済政策を学ぶ必要があるのか?
 1. 政策当局者にとっては実際的問題
 2. 我々の世界を理解するため
 3. 政策当局の意図及び間違いを理解するため
 - J. ロビンソン「経済学者に騙されないため」
- 最近のトレンド : Evidence-based Policy Making (EBPM)

テキスト・参考文献

- 特定の教科書は用いない

- マクロ経済学

- 齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田彰久『マクロ経済学』有斐閣
- ブランシャール『ブランシャール マクロ経済学 上・下』東洋経済新報社
- シュミット=グローエ・ウリベ・ウッドフォード『国際マクロ経済学』東洋経済新報社
- Pablo Kurlat "A Course in Modern Macroeconomics"
- Challe "Macroeconomic Fluctuations and Policies"
- David Romer (2018) "Short-Run Fluctuations"

- 経済数学

- 尾山大輔+安田洋祐『[改訂版] 経済学で出る数学』日本評論社

講義スライド

- スライドは Oh-o!Meiji から各自ダウンロード
 - オンラインの場合、講義動画アドレスも一緒に掲載

成績評価について

- 以下、シラバスに書いてある内容
- 定期試験 (70%)
 - 人数に応じて期間内試験の可能性あり
 - ウェブベースの小テスト (Oh-o!Meiji 経由) はこちらに加算
- レポート (30%)
 - 講義でカバーできないトピックを自分で勉強してもらう

数学的準備

- 出来ないことを大前提としています
- しかし、**理解しようとする努力は必要！**
- 数学を使うときには事前に説明します
 - グラフの読み方
 - 例：関数とは？

$$y = f(x)$$

- 若干の統計学に関する知識：平均、分散 etc.

経済政策を理解する意義

- 全ての人が幸せになる経済政策はあるのか?
 - 大前提: そういう政策を探し求めることは大事
 - 見つかったら「実行あるのみ!」
 - そんなものが簡単に見つかるのであれば「授業で話していないで早く実行すればよい」になる
 - そのため、多くのケースでそういう政策は簡単にはみつからない(そもそも存在しないかも)
 - 全ての人が幸せになるなら、意見の対立は生じない(はず)
- 残念ながらそうではない問題が多々ある
 - 例: 社会保障における世代間の負担
 - 多くの政策では受益と負担のバランスを考える必要あり

経済政策を理解する意義 (続き)

- 経済政策を考える上で重要な軸・視点の例
 - 1. 市場か、それとも政府か (経済政策論 A & B)
 - 市場による資源配分機能の有効性と限界を理解する
 - 2. 短期的な視点と長期的な視点 (経済政策論 A & B)
 - 景気対策か、成長戦略か
 - 3. 効率性と公平性：所得再分配機能 (経済政策論 B)
 - 誰に負担をしてもらうのか？
 - 経済格差の拡大
 - 4. 異時点間の資源配分 (経済政策論 A & B)
 - 政策の効果は静的ではなく動的に理解する必要がある
⇒ 動学的マクロ経済学
 - 世代間の不平等：昔と比べて今の人達は損をしている?
⇒ 少子高齢化と社会保障制度

マクロ経済の安定化

短期 (Short-run)

- 景気の状態を微調整 (ファインチューニング)
 - 例：アベノミクス第1の矢&第2の矢
 - 経済の舵取り：いわゆる”景気対策”
- 財政政策
 - 財政支出拡大で景気を刺激・回復 (ケインズ政策)
 - 総需要管理政策
 - 国の借金が増えていく…
 - 累積債務と財政の維持可能性
 - 消費税増税 etc.

マクロ経済の安定化 (続き)

- **金融政策**
 - インフレ・デフレをコントロールして物価を安定
 - 具体的に何をしているのか?
 - 金利/マネーサプライをコントロール
 - 植田総裁：マイナス金利政策を解除
 - 金融システムの安定化・監視
 - BIS 規制
- **財政・金融政策に関する最近の議論**
 1. 「質的・量的緩和政策とゼロ金利」の解除
 2. 景気対策、特に財政政策は効いてるのか？
 3. そもそも何をやっていた？：将来の予想・期待の役割

経済成長・経済発展

注意：経済政策論 B の内容です

長期 (Long-run)

- 「何故、我々はこんなに豊かで、彼らはあのように貧しいのか (Why some are so rich and some so poor)？」
 1. 「体重を増やさないことに多額の金を費やす国」
 2. 「生きるために食べる国」
 3. 「次の食事がどこで手に入るかもわからない国」
 - D.S. ランデス (2000) 『強国論』 三笠書房

経済成長・経済発展 (続き)

- 経済成長のエンジンはなにか?
 - 資本：貯蓄と投資
 - 人的資本：教育
 - 生産性：技術革新
- 経済成長を高めるための政策
 - インフラ整備、教育、R&D 投資、特許 etc.
 - 民主主義、投票制度、財産権 etc.
- 社会保障制度
 - 少子高齢社会：公的年金、健康保険、介護保険 etc
 - 少子化対策は有効なのか?
 - 家族の経済学：結婚、出産、育児 etc.
- 短期と長期の両面から経済政策を考える

経済政策に関わる経済学者達

- 大統領経済諮問会議 (Council of Economic Advisers: CEA)
 - G. Hubbard、N.G. Mankiw、A. Goolsbee etc.
- 中央銀行
 - B. Bernanke (Chair)、J. Yellen (Chair)、M. King (BOE)、N. Kocherlakota (Fed)、C. Plosser (Fed) etc.
- 世界銀行、IMF
 - J. Stiglitz、O.J. Blanchard、R. Rajan、P.O. Gourinchas etc.
- X(Twitter) 等の SNS で “本物の” 経済学者がどんなことを考えているのかを読むのも勉強になる
 - 例えば、Taisuke Nakata さん、Fuhito Kojima さん
- マクロ経済学の歴史をコンパクトに知る
 - ブランシャール 『マクロ経済学 下』 24 章
 - ワプショット 『サミュエルソンかフリードマンか』